



今日の表紙
きぬ姫飾り展



2月20日(土)～3月6日(日)に藤原総合文化会館ロビーできぬ姫飾り展が開催され、期間中、約7,500人が訪れました。会場には、つるし雛の他、頭上につるされた神々しい色の黄藤、愛くるしい表情の三猿、そして約600本の燕子花が特別に展示され、一段と華やかさを演出していました。

飾り物は全て鬼怒川・川治温泉協同組合女将の会と女性の会メンバーの手作りです。訪れた人々は、温かみのある飾り物一つ一つをじっくり鑑賞していました。ドライブの途中、偶然寄ったという鈴木さん(宇都宮市)は、「全て手作りに驚きました。特に燕子花は見事です。この空間にずっと居たいです」と笑顔で話してくれました。



2月13日(土)・14日(日)、中禅寺温泉で毎年恒例となっている「カマクラまつり」が開催されました。会場となった県立日光自然博物館前には、多くの親子連れたちが集まり、かまくら作りやそりすべりなどを楽しんでいました。高根沢町から親子4人で訪れた谷口慧さんは「初めて来ました」。



かまくら作りは大変だけれど楽しいです」と話してくれました。2人のお子さん、華恵ちゃん(華穂ちゃん)も、楽しそうにスコップで雪を掘ってかまくらを作っていました。13日の夜には、会場内のかまくらのライトアップが行われた他、中禅寺湖畔で花火も打ち上げられました。

中禅寺温泉 「カマクラまつり」



2月11日(木・祝)にJR今市駅前で今市地域の新春の風物詩、花市が行われました。花市は、明治時代から行われている伝統行事です。快晴の下、縁起物のだるまや熊手などの露店が約240店並び、会場は多くの来場者でにぎわいました。そして同日、道の駅「日光」日光街道ニコニコ本陣で、第16回全



日本しもつかれコンテストが開催されました。県内外各地から計30品のしもつかれが出品され、それぞれ自慢の味を競いました。会場に訪れた678人は、一つ一つのしもつかれの味の違いを楽しみました。その後、来場者の投票により16代目鉄人には大森正雄さん(宇都宮市)が選ばれました。

鉢石宿のおひなさま



2月11日(木)～3月3日(木)、日光街道の最終宿場町として栄えた鉢石宿を雛飾りで飾り、日光鉢石宿のおひなさまが開催されました。

JR日光駅から田母沢御用邸記念公園までの国道沿いを中心に、個人宅や商店など約170軒に雛人形などが飾られました。メイン会場となった日光郷土センターには、奥ゆかしい年代物の段飾りや地元の皆さん手作りのつるし雛が飾られ、訪れた人々は目を奪われていました。

また、「着せ替えおひなさま体験」では、華やかな衣装を着た家族連れなどが、楽しそうに記念撮影をしていました。

家族で訪れた高橋哲雄さん(宇都宮市)は「嫁のお母さんがミャンマーから日本に遊びに来て、たまたまこのイベントを見つけました。間もなく帰国してしまうので、とても良い思い出になりました」と話してくれました。



日光キャンドルページェント2016



2月10日(水)～14日(日)に、憾満ヶ淵と含満街区公園で、日光キャンドルページェント2016が開催されました。キャンドルの優しい光で包み込まれた会場には多くの観光客が訪れ、幻想的な光景に酔いしれていました。また、12日～14日には花火も打ち上げられました。



2月13日(土)～27日(土)、奥日光湯元温泉でライトアップイベント「雪灯里」が開催されました。このイベントは日本夜景遺産にも認定されており、会場に設置された約800個のミニかまくらに灯りが灯されました。13日には湯ノ湖畔で花火も打ち上げられ、雪と光の織りなす静寂の世界に色を添えていました。

湯元温泉 「雪灯里」

冬牡丹室内庭園



2月20日(土)～27日(土)、今市市緑ひろばで冬牡丹室内庭園が開催されました。冬牡丹は、春牡丹と同じ品種を冬に開花するよう温度管理をして育てたものです。牡丹の名産地である島根県大根島から運ばれた150鉢75品種の冬牡丹が、つるべ井戸や雪囲いなどとともに庭園風に配され、大輪の花を咲かせました。

廻り阿波様



2月28日(日)、下猪倉の大杉神社で廻り阿波様が行われました。江戸時代末期に疫病が流行した際、当時は悪魔のせいと考えられており、その悪魔払いがこの祭りの起源と言われています。赤天狗と青天狗を先頭に神輿を引き、地区内の家庭に上がり無病息災のお祓いをするので、地域の皆さんの健康などを願いました。